

2019年度決算の概要

2019年度の業績

売上収益

主力製品を中心に需要が減少したことや原材料価格下落(価格スライド制)の影響に加え、素形材製品セグメントの構造改革施策に伴う減少等により、2018年度比13.9%減の8,814億円となりました。

調整後営業利益

固定費削減等を進めたものの、エレクトロニクス・半導体関連市場の減退や各種製造装置・工作機械の需要減、新車販売台数の減少等に加えて、経営効率向上施策の一環として、需要減少への対応・棚卸資産適正化のための大幅な生産調整を行った結果、2018年度比370億円減の144億円となりました。

営業損益

磁性材料事業について、主に希土類磁石事業の事業環境の変化・将来の収益性を見直し、第2四半期に磁性材料事業全体で426億円の減損損失をその他の費用に計上したため、2018年度比816億円減の391億円の損失となりました。

製品分野別の状況

自動車関連

グローバルの自動車販売台数減の影響により、多くの主要製品の需要が減少しました。

FA・ロボット関連

需要の回復は見られず、希土類磁石、電線材料で低調が続きました。

スマートフォン関連

クラッド材が増加しました。

半導体関連

銅系、ニッケル系材料とも顧客在庫調整が終了しましたが、力強い回復は見られませんでした。

経営効率改善施策の実行

フリー・キャッシュ・フロー

生産調整による棚卸資産縮減(2018年度末比349億円縮減)や投資抑制などにより495億円となり、792億円改善しました。

固定費削減ほか

2018年度比242億円削減しました。

新型コロナウイルス感染症の影響

中国や北米自動車事業の需要減少や関連する製造拠点の稼働減少がありました。2019年度全体における影響は限定的でした。

2019年度実績

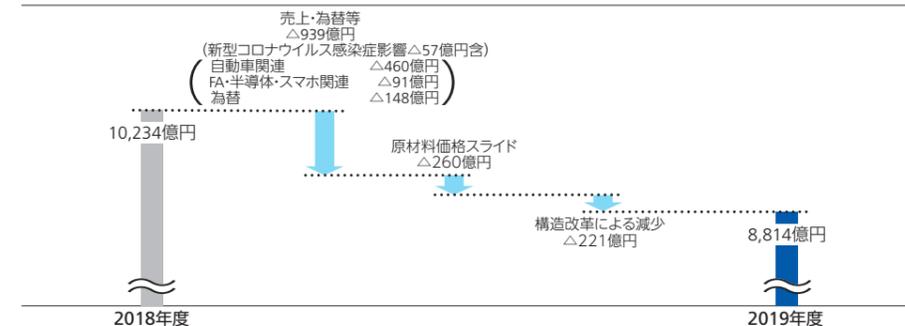
| | 2018年度 1\$=111円 | 2019年度 1\$=109円 | 前年度対比 |
|-----------------------------|--------------------|--------------------|-----------|
| 売上収益 | 10,234億円 | 8,814億円 | △13.9% |
| 調整後営業利益 ^{*1} | 514億円 | 144億円 | △370億円 |
| 調整後営業利益率 | 5.0% | 1.6% | △3.4ポイント |
| EBIT | 453億円 | △384億円 | △837億円 |
| 親会社株主に帰属する当期利益 | 314億円 | △376億円 | △690億円 |
| 資産合計 | 10,993億円 | 9,778億円 | △1,215億円 |
| 親会社株主持分 | 5,880億円 | 5,203億円 | △677億円 |
| D/Eレシオ | 0.34倍 | 0.36倍 | +0.02 |
| ROIC(投下資本利益率) ^{*2} | 5.3% | 1.7% | △3.6ポイント |
| ROE | 5.5% | △6.8% | △12.3ポイント |
| CCC(運転資金手持日数) ^{*3} | 90.7日 | 87.1日 | △3.6日 |
| 海外売上比率 | 56% | 54% | △2ポイント |
| 営業キャッシュ・フロー | 666億円 | 1,060億円 | +394億円 |
| 投資キャッシュ・フロー | △963億円 | △565億円 | +398億円 |
| 設備投資 | 954億円 | 530億円 | △424億円 |
| フリー・キャッシュ・フロー | △297億円 | 495億円 | +792億円 |
| 減価償却費 | 509億円 | 552億円 | +43億円 |
| 研究開発費 | 186億円 | 159億円 | △27億円 |

*1 調整後営業利益=売上収益-売上原価-販売費及び一般管理費

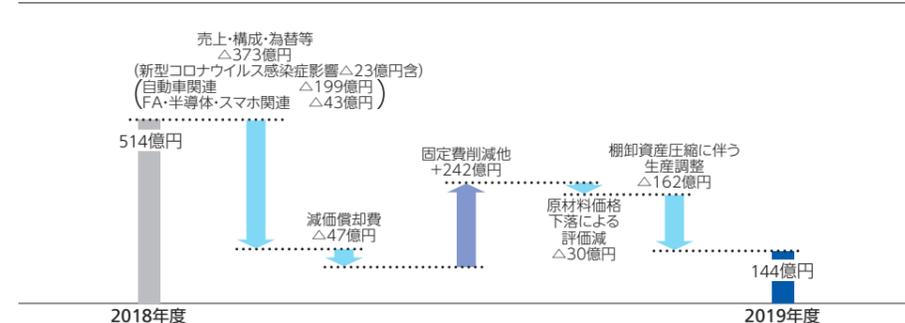
*2 ROIC=親会社株主に帰属する当期利益÷(期首期末平均有利子負債+期首期末平均親会社株主持分)

*3 CCC=運転資金(売上債権+棚卸資産-買入債務)÷1日平均売上収益

売上収益の増減要因(前年度対比)



調整後営業利益の増減要因(前年度対比)



2020年度の予想

現在、新型コロナウイルス感染症(以下、感染症)の拡大が継続しており、グローバル経済に甚大な影響をもたらしています。当社グループの主要な事業領域である自動車、エレクトロニクス、産業インフラの各分野においても需要の深刻な停滞が見られ、当社事業に与える影響は2019年度以上に重大なものになると予想されます。当社グループが関連する事

業領域においては、感染症の影響については、2020年度第3四半期からは徐々に通常の営業活動に戻り始めるものの、期間を通じて一定程度の影響は残るものと考えています。感染症が2020年度業績に与える影響として、売上収益△1,000億円、調整後営業利益△400億円を業績予想に織り込んでいます。

2020年度業績予想

(※想定為替レート 1\$=105円)

| | 公表値 | 感染症の影響を除く |
|----------------|---------|-----------|
| 売上収益 | 7,500億円 | 8,500億円 |
| 調整後営業利益 | △50億円 | 350億円 |
| 調整後営業利益率 | △0.7% | 4.1% |
| 税引前当期利益 | △150億円 | |
| 親会社株主に帰属する当期利益 | △120億円 | |
| ROIC | — | |